

えんだより

キラキラ 5月



2021年5月6日
社会福祉法人尚徳福祉会
保土ヶ谷保育園

新入園、進級から一か月が経ち、子どもたちは保育園や保育者のことをその年齢なりに理解し、「保育園は安心できる場所」と少しずつ認識しはじめてくれたように思います。初めての環境、知らない大人の中で不安な様子だった子どもたちも、泣かずに給食を食べたり、笑顔を見せてくれたりするようになりました。保護者の方との「愛着関係」がしっかりできていたからこそ、子どもは不安な気持ちになります。保育園の保育者とも愛着関係をしっかり築けるよう、愛情たっぷりで保育をしていきたいと思ひます。

この「愛着関係」は子どもの「土台」となります。どんなに良い種をまいても、土が良くなければ、強い木は育ちません。この「土台」をしっかり作り、これから様々な経験を積むことで、たくさんの栄養を蓄え、立派な樹木へと成長していきます。

一緒に園庭で遊んでいるとき泣いているお友だちを見て、保育園のお兄さんお姉さんが優しく声を掛けてくれ、泣き止む姿が見られたり、お散歩に行く際に手を引いてもらい、安心して園外に出ることができたりと、保育園ならではの異年齢の関わりも自然に行っています。

小さい子を思いやる気持ちや、お兄さんお姉さんにあこがれる気持ちも、子どもたちの健やかな成長にとって大きな力になっていきます。

保育園で様々な経験を生かして、大きく大きく成長していけるよう、職員一同力を合わせて頑張っていきたいと思ひます。

園長



＜保育園に通いだと風邪をひきやすくなる＞

同じ年頃の子どもの集団なので、かかりやすくなります。とくに初めて通いだす0歳児～2歳児は、鼻水、発熱などを頻繁に起こします。中耳炎を繰り返す子、鼻水がしょっちゅう出る子、熱を出しやすい子・・・こういう現象は「保育園症候群」と呼ばれていますが、同年代の子どもたちの中でうつし合いをしているので、ある程度仕方ないことです。2歳児を過ぎると繰り返さなくなりますので、安心してください。

吉村小児科医院長
日本小児科医会常任理事
内海 裕美先生



🐻 今月の予定 🐻

- 10日(月) 避難訓練・英語
- 18日(火) 全園児健康診断
- 26日(水) 幼児集会
- 28日(金) 英語
- ※8日(土)に予定していたクラス懇談会は中止となります。
- 新型コロナウイルス感染拡大の状況により、開催できる際にはお知らせいたします。

保育園での子どもたちの育ち

○入園の際、保護者の皆様に「保育所保育指針」をお配りしたと思います。(水色の薄い冊子)

「保育所保育指針」は厚生労働大臣告示として定められたものです。保育園はこの「保育所保育指針」に基づき、子どもの健康及び安全を確保しつつ、子どもの一日の生活や発達過程を見通し、それぞれの保育の内容を組織的に構成して、保育を実施することになります。

子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を養うために、環境を通して養護及び教育を一体的に行うことが大切です。



○養護とは・・・子どもの生命の保持及び、情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わりのことです。

○教育とは・・・子どもたちは全て「遊び」から学びます。子どもたちが自分で考え、「これをやりたい!」と自分で選んだ遊びをとことん楽しむ中で、「学びに向かう力」※を育てていきます。

※「学びに向かう力」「非認知能力」とも表現される。とはIQ(知能指数)等で数値化される認知能力と違い、目には見えにくいもの。目標・意欲・関心を持ち粘り強く仲間と協調して取り組む力や姿勢等を指す。

☆子どもたちは、0歳児から5歳児まで一番大切な時期を保育園で過ごしています。乳児期から子どもたちの気持ちをしっかり受け止め、栄養たっぷりの土を作り、卒園までに、根っことなる「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」へ少しでも近づき、立派な樹木へと成長できるように職員一同頑張っていきたいと思ひます。